

冬期間の運動不足解消に

春一番街歩きウォーク

冬 期間の運動不足を解消し、町民の健康増進のきっかけを作ることが目的に、3月30日(日)町内で街歩きウォークを行いました。

中泊町ウォーキング協会が主催し、今回で2回目となるこのイベントは、津軽中里駅をスタート・ゴールとした全長約8キロのコース。春を迎えた街中を参加者たちは軽快に歩き、心地よい汗を流していました。ゴール後は、ふるまい鍋やお楽しみ抽選会を楽しみました。



中里地域



小泊地域

安全に登校できるように見守り

町内街頭監視

春 の交通安全運動期間中の4月7日(月)～15日(火)まで、町内5か所で街頭監視が行われました。

初日は入学式があり、子どもたちが新学年となって登校する日でもありました。今年も学校の先生をはじめ、保護者、警察関係者など地域みなさんが登校時間に交通量の多い危険箇所立って、学校に向かう子どもたちと「おはよう」をあいさつをかわしながら、安全に通行できるように誘導していました。

カラオケファン集結！

チャリティふるさと歌まつり

ふ りさと交流会(会長・夏原謙二)が主催する「チャリティふるさと歌まつり」が、4月13日(日)パルナスで行われ、町内外から約400人のカラオケファンが集まりました。

開会では主催者や来賓のあいさつに続いて、夏原会長から町社会福祉協議会・秋元会長へ寄附金が手渡されました。秋元会長は「大変ありがたい、町の社会福祉活動に役立てていきたい」と感謝の言葉を伝えました。

イベント第1部はふるさとカラオケ大会。県内から31人が参加し、それぞれ自慢の歌声を披露し、優勝を目指しました。また、会場外では、町特産物販売コーナーが設置され、来場者たちが買い物を楽しんでいました。



中村さん(左)、坂本さん(右)



古川さん(左)、工藤さん(右)

難しい仕事でした

尽力した2人に感謝状

中 泊保護司会の総会が、4月17日(土)ふれあいセンターで行われ、退任した中村盛江さんと坂本チヅ子さんに小野町長から感謝状が手渡されました。2人は保護司として更生保護の職務に尽力。明るい地域社会づくりと町民の福祉の向上に貢献しました。

中村さんはあいさつで「平成9年から保護司となり、当初は、いろいろ心配もあったが先輩たちが助けてくれた。人との対応なので難しい仕事であった」と振り返っていました。一方、坂本さんは「平成2年から務めてきた。まだまだ、元気なのでこれからも地域に貢献したい。なにかあれば声をかけていただきたい」と話していました。また、2人の後任には、工藤正日孝さん、古川節子さんが務めることになりました。

家族や利用者みなでお祝い

加賀田ヤヨさんが100歳顕彰

加賀田ヤヨさんが、4月5日(土)静和園で100歳を迎え、小野町長から100歳の顕彰状と祝い金が手渡されました。加賀田さんは、大正3年に旧内潟村に生まれ、昭和9年に旧武田村に嫁ぎ、子ども4人・孫13人、ひ孫21人、玄孫2人に恵まれました。結婚したときから、農業に従事していましたが、60代には冬期間、名古屋、関東方面へ出稼ぎ経験もあるそうです。趣味は、裁縫、編み物で、小学校6年の頃に自分で着る着物をつくっていた器用な人です。この日は、「100歳を祝う集い」が行われ、ケーキのろうそくの火を自分で吹き消す元気な加賀田さんに拍手が送られました。家族や園の仲間からプレゼントが送られ、「ありがとう」と答えていました。最後に家族から「今もよくしゃべるし、なんでも食べる。自分で歩く。みなさんのおかげです。この調子だと世界最高齢も夢でないかも」と喜んでいました。



天までとどけ～

中里保育所がピュアで「鯉のぼり揚げ」

中里保育所ひまわり組の子どもたち16人が、4月11日(金)町農産物加工販売施設「ピュア」駐車場で鯉のぼりを揚げました。子どもたちは風であおられながらも鯉のぼり10匹を2人1組となって運び、「よいしょ、よいしょ」と声をかけながら鯉のぼりをくくりつけたロープを引きあげました。空には黒、赤や青など大小色とりどりの鯉のぼりが気持ちよく泳ぎ、子どもたちは「天までとどけ～」と声をかけたり、「かわいい」など言いながら楽しみました。鯉のぼりは、住民から使わなくなったものをいただいたもので、来場客に楽しんでもらおうと昨年からピュア駐車場に掲げています。今回は中里保育所の子どもたちが協力し盛り上げました。鯉のぼりは5月中旬まで飾るそうです。

鈴木さんが修了生代表挨拶

青森シニアカレッジ第2期生修了式

全18回の講座を終えた平成25年度青森シニアカレッジ第2期生たちが、3月35日(火)修了式に臨みました。式には、156人の受講生が参加し、かけつけた青山副知事がねぎらいの言葉をかけました。また、鈴木喜代三郎さんが「シニアカレッジで仲間との絆を培い、たくさんの思い出をつくることができた」と修了生を代表してあいさつしました。

修了式を終えた野上慶子さんは「楽しみながら参加できた。自分の視野を広げることができた。次回もぜひ参加したい」と話していました。



ヤリイカ漁が本格化

刺身も、子持ちの煮付けも最高

春を呼ぶ、ヤリイカシーズンが到来しました。このイカは胴が細く、後端が槍のように尖っていることから「ヤリイカ」と呼ばれており、とても寒く厳しい環境の中で漁が行われています。ヤリイカは、甘みのある味わいで、刺身や煮付けがとても美味しく、卵巣は生でも煮ても食べられます。ヤリイカ漁には棒受け漁や定置網などの漁法があります。4月3日(木)の小泊漁港では、早朝ヤリイカの箱詰めが行われていました。関係者は「ヤリイカ漁が大漁であって欲しい」と話していました。また小泊地域では、この時期、ライオン海道などから、ヤリイカ漁の漁火をみることができます。

